

令和6年度 第3回西区まちづくり懇話会(要旨)

1 日 時 令和6年(2024年)12月24日(火)14時～

2 場 所 西部公民館2階 A 会議室

3 出席委員(9名)

川副会長、安部副会長、岡委員、久保委員、上村委員、本田委員、松島委員、吉永委員、田尻委員

4 議事要旨

●議題1 第2回懇話会ワークショップについて

(久保委員)

私の校区では色んな催物を丁寧に行っており、つい先だっても文化祭を行いました。

その様な中で高校生・中学生と校区・熊本駅周辺で話し合われたことは非常に楽しい思い出になりました。私も頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

(上村委員)

中学生・高校生と話していると、意外と生徒さんたちが自治会活動を知っていましたので、その中からチラシのテーマを絞りました。

有明海沿岸エリアでは役員のなり手がいない。まず、役員という敷居が高いから、「スタッフ大募集」と各イベントで打っていったらどうかという話が出てきました。そのような意見を聞いて、この西区には若い宝がいっぱいあるなと感じました。

(本田委員)

私のエリアでは、自治会にあまり馴染みのない生徒さんたちが多く、自治会でどういうことが起こっているのかがまずよく分からない、という様子でした。

それでチラシ作成の中盤まで大分苦しみましたが、その後は様々な意見がたくさん出ました。

今後は具体的な取り組みへ発展が必要になってくるのかなと、感じたワークショップでした。

(田尻委員)

地域で取り組んでいらっしゃる行事に地域外の方などが参加していいのかなど、可能な範囲で地域の方からも情報提供があったり、取組と一緒にできると西区としての良さが出せると思いました。

懇話会を開催することで地域の良さが他の方たちにも伝わっていくと、意義があるのかなと思います。

(松島委員)

世代間を超えての議論ができました。個人差、温度差は感じましたが、新たな西区の魅力を知る機会になり、非常に意義のあるワークショップだったと感じました。

(吉永委員)

自治協議会など活動しているのは高齢者が多くなっていますので、どのように若い人を取り入れてイベントができるのかといったことを仕掛けていく必要があるのかなと感じました。

本当に有意義な会で、若者がこんな意見を言っているという素晴らしさを発見させていただいた。このまちづくり懇話会で皆とできるものがあったら良いと思っています。

(川副会長)

まちづくり懇話会は、色々な立場の人が、色々な視点で一つの会を見ているというようなところなので、この様な意見の共有化というのは非常に大切ではないかと思っています。

(安部副会長)

せっかく作ったものを地域の人に見せられるような情報発信の方法はないのかなと思います。出てきたアイデアは大事だと思うので、それを集約して結果を周知していく方法があってもいい。また、地域により子供達が自治会のことを知っている、知らない所があるのはなぜか、皆に知ってもらうためにはどうすればいいか、みんな知っているという地域の子供たちから学ぶことは多いと思います。同じ区の中で差があるのはなぜかというところに注目するとすごく面白くなるのではと思います。

(岡委員)

私は去年のワークショップに参加しました。今年と同じように発表して、あれが実現するのかと、わくわくしていたのですが、形にならず次の年となっているので、もったいないなと感じています。上熊本と熊本駅のほうでは温度差が違ふようなところも少し見えるので、西区全体で何か盛り上げていけるようなものを皆で一つ作り上げていく、みたいなものがあるといいなと感じています。

(川副会長)

私の印象的には、中高生の参加が非常に多く、活性化していた感じがしたという印象を持っています。自治会の問題というのは非常に難しく、継続してやる人がいないとか、高齢化が進んでいるところがあり、この課題を大人だけで解決するのは難しいのではないかという印象を持っています。昔のように、親から子供たちに向けて情報を発信していく時代から、子供と一緒に何か作っていく、というように世の中が様変わりしている印象を持っていて、ワークショップの様子を見ながら、子供たちが積極的に話すといろんなことが変わっていくのではないかという印象を持ちました。次回も、子供の参加はかなり気になるというところと、参加する大人たちへ、子供たちを光らせるようなマネジメント、打合せをやっていく、そんな形になれば、より良くなるのではという印象を持ちました。

●議題2 令和6年度まちづくり推進経費事業の進捗について

(上村委員)

イベント名などに校区が入っていると、この校区のイベントだから行きたくても行けないと感じることがあると思うので、校区を書くのをやめれば皆さんお越しくさいますみたいになるかなと感じました。

(西部まちセン)

校区が主体となって事業をそれぞれやっているのですが、校区によっては、余りにも宣伝して人が多くなり過ぎると警察から規制がかかる、警備人数を増やさないといけないなど、多くの方に来ていただくと、ちょっと困った問題も出てくるというような悩みがある。

(河内まちセン)

河内でもイベント開催時の駐車場確保が問題になっており、苦情をいただくこともあります。

(川副会長)

少子化が進んでいくと、集まる人がどんどん少なくなっていく可能性もある中、今後を見据えながらどうやって活性化していくかということは考えなければいけないかなと感じています。

(本田委員)

今回のワークショップでは、中高生が積極的に意見を出していて地域に貢献したいという気持ちが非常によく見えました。また、花園まちづくりセンターでは、大人の方達がたくさんのアイデアを出してもらえる。ならば、中高生もアイデアをたくさん持っているのではないかと思います。

区役所は非常に頑張っておられ、良い取組を多くされておりますので、今後、ぜひ若者の活用を考えていかれてはどうかと思いました。

(花園まちセン)

今回は、20～30代中心に若い人たちが集まってのワークショップでした。

花園まちづくりセンター管内の特色は、小・中・高・大学と全ての学校があります。実行委員会やワークショップなどで意見を言っていただく活躍の場のようなものに広げていきたいと思っております。

(総務企画課)

西区フェスタが3月にございますが、高校生のボランティア活動の場として、西区フェスタにブースを設けないか学校と協議をしております。

(安部副会長)

西区チャンネルの配信事業で西区のPRをするとして、学生たちの目線だと何を配信するだろうか。

1本でも作ってもらうことができればすごく視点が変わるのかなと思います。その世代に合わせた配信の仕方や見せ方を聞いたり、何かテーマを与えて一緒にやりませんかと取り組むのも面白いかもしれない。

他に、参加したい学生たちを取りまとめるボランティアの窓口があればいい。登録すると情報をくれて自分が行けるときに行きますみたいなものがあると学生たちが楽になる。自分で情報取って参加したいという形で結構成り立つのではないかなと思います。西区を手伝って西区が好きになって、もっと自分の地域のことを知りたいなという、そんな窓口があっても良いのではないかなと思いました。

(吉永委員)

子供ってすごく柔らかくいろんなことを発想して、僕たちのこのまちをもっと住みやすくていいっていうのを小学生のとき話しているんです。でも、そういう子が中学校・高校に行ったとき、参加したいけど場所がないので、参加しやすいような方向付けをしていくのは大切だと思います。小学生からでも、どんどんその芽を伸ばしながら、参加できるような、子供の目線でのチャンネル配信っていうのはいいのではないかと。

(西部まちセン)

頂いた話は、区側が子供たちのスピードについていけないような状況かと思いますので、御意見を参考にさせていただきたいと思います。

(上村委員)

横断歩道を子供たちは走ってきて、止まらない。止まってもらえれば事故は少なくなるのですが。路面標示シートが横断歩道にあれば安心で、とても良いと思います。もう1点、保健こども課の骨密度測定・血管年齢測定・ベジチェックの機器は、移動が可能で、イベント等に来ていただくことは可能ですか。

(保健こども課)

機器は全て持ち出し可能です。予定が重複しなければ校区の保健師を通して御相談頂けると、期間が限られますが、地域で是非進めていきたいと思っております。

(吉永委員)

いろんな検査について、自治協議会では健康づくり部会を通してチラシを配りますが、各校区には何らかの方法でお知らせしているのでしょうか。回覧版、各町内の隣保等、あまり見受けられないので、何か方法があれば、近隣であるときに皆さんちょっと行ってみようか、というのがあるのかなと思います。

(保健こども課)

各校区で健康まちづくり部会等を作っており、市の LINE で紹介するときもございます。おっしゃるように、校区でのイベントのチラシなどに載せていただくようにしていますが、周知について充分でないところもあるかと思います。先ほどSNSも含め周知してはというお話ありましたので検討して参ります。

●議題3 西区おれんじトーク開催状況について

(岡委員)

区長とお話しできるとのことですが、例えば福祉サービスの申請をしたが調査が長引いて利用できない状況があることなど、どこまでお話しできるのか。

(区長)

おれんじトークは、個別具体的なものとは異なり、今年度はテーマを分けてお話を伺っています。今頂いたお話は、御要望として別途御相談いただければと思います。手続の遅れをどうにかできないか、他所から応援してもらうなど、いろいろ工夫し早めていきたいと思っております。

(川副会長)

いろんな意見をフリーに話せる機会というのはとても大事な気がします。それを受け、実行する、しないは別の話ですが、意見を聞くという意味では、幅広く色々な方に聞かれるのがいいかなと思いますし、今年度は趣旨を変え、いろんなカテゴリーでというのも面白と思います。

(吉永委員)

おれんじトークは区の方から働きかけているのか。市長の「おでかけトーク」同様に数名で集まって、こういうテーマで話したいといったことも、声を出せる場所があればもっといいと思ったのですが。

(区長)

区の方から、今回はこのようなテーマや方々からお話を伺いたいということで、関係の方々に相談して行っています。地域の御要望でおれんじトークを開くという仕組みは取っていないのですが、そういったお声を頂くようであれば、今後、考えていきたいと思います。

●議題4 その他

(本田委員)

来年度への要望なのですが、この会は重要な意見がたくさん出まして勉強になるのですが、是非校長会の会長や自治協議会の会長さんを懇話会に加えられないでしょうか。おそらく、直接参加いただく方が熱量も高いと思います。

学校と地域と行政と、完全に協力して行くのならば、そういう形のほうが望ましいのではないかと思います。

(区長)

精査の必要もありますが、頂いた御意見は今後の参考にさせていただければと思います。

(川副会長)

要綱がありますので、変えるのは難しいかもしれませんが、オブザーバーなどの手段はあるかもしれませんので、ご検討頂ければと思います。

(安部副会長)

今までの議論も含め、情報発信、広報について考えを整理したほうが良いと思う。

ユーチューブだけでなく、広報紙や区でできるインスタグラム等のSNSもあるかもしれないが、情報発信にはツールに合ったターゲットを決めないと駄目だと思っている。情報が市政だよりもメインの人たちとインスタ・フェイスブックのほうがメインの人たちでは情報発信の仕方が変わってくると思います。また、西区には楽しいことがいっぱいあるというのは、西区全体として見せられたほうがいい。それぞれの地域や個人でばらばらに発信して、西区全体として見えるものがないのは非常にもったいないと思う。

(区長)

情報発信は非常に大事なことですし、いろんなツールがある中、ターゲットを明確にし、それに合うツールを選択するのは非常に大事だと思います。途中で話しがあった西区チャンネルを若い人へ向けてという御意見も頂きましたし、広報全般について、より効果的なものとなるよう検討させていただければと思います。

(岡委員)

LINEなどの情報発信が、西区としてあるのか。菊陽町もLINEや広報紙がありますが、広報誌は必要な所だけ見て捨てる事が多い。でも、LINEで来ると必ず見る。こんな事があってたんだ、こんな募集がされているんだというのを良く見ます。

(中川部長)

熊本市のLINEに各課が記事を入れていく。ターゲットを絞り、例えば主婦層だと何時ぐらいから見てくださるので、5時にオープンする等の工夫はしております。西区独自ですと、フェイスブックとユーチューブ、熊本市のLINEでは各まちセンだよりもご覧いただけます。何校区の情報が欲しい、イベント情報や防災の情報というのをチェック項目で選んでいただければ、Pメールなども。

(事務局)

- ・第4回まちづくり懇談会の開催日について
- ・西区フェスタ2025について
- ・令和7年度まちづくり推進経費事業について
- ・西区アイデアコンテスト審査について

<閉 会>